

様式2 令和5年度 清瀬市立清瀬第八小学校 学校評価表

学校教育目標	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
◎よく考え進んでやりぬく子 ・みんな仲よく助け合う子 ・明るく強い元気な子	本校の教育目標のもと、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指していく。中でも重点目標である「よく考え進んでやりぬく子」の育成を目指し、授業のねらいが明確であり、「わかる」「自分の伸びを実感できる」授業を展開する。また、昨年度より設置された特別支援学級(自閉症・情緒障害学級)設置校として、通常学級との連携を密にした特別支援教育を展開していく。特に「特別支援教育校内委員会の充実」「ユニバーサルデザイン授業の推進」「インクルーシブ教育の推進」に重点的に取り組むことで、個に応じた指導を充実させる学習環境を整え、きめ細やかな指導を充実させる。
目指す学校像(ビジョン)	
【目指す学校像】 確かな力を育てる学校・感謝と笑顔あふれる学校・思い出と夢を語り合える学校	
【目指す児童・生徒像】 よく考え進んでやりぬく子 ・みんな仲よく助け合う子 ・明るく強い元気な子	
【目指す教師像】 深い子供理解と高い授業力をもつ教師 明るく謙虚で責任感をもち、互いに高め合い、誇りをもつ教師 教育公務員としての自覚をもち、誇りをもつ教師	

前年度までの学校経営上の成果と課題

「成果」・めあての明確化し、見直しをもって一単位時間に取り組みさせたことによる、学ぶ意欲や基礎学力の向上。地域連携による子供たちへの授業・生活サポートの充実。
 「課題」・読む力の向上を目指し、「学ぶ楽しさ・自分の伸びを実感できる」授業を展開する。(指導法、発問の工夫、対話の場の設定など)地域連携の輪の一層の充実。

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)		
		取組指標	成果指標	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
確かな学力の向上	授業や宿題などでドリルパークを積極的に活用することで、学習内容の定着を図る。	2	2	・家庭学習が習慣化すると数値の向上につながると思う。 ・タブレット端末を利用した授業が多くなっていると思うが、正しい使い方や各児童の実態に合わせた指導が必要だと考える。	・個に応じた指導を充実させるとともに、一人一人の認知力を高める指導を行っていく。
	特に読む力の向上をめざし、児童が興味・関心をもてるような、導入の工夫や活動形態の工夫を行う。	3	4	・継続して指導していくことが必要と考える。	・各教科で読み取る力を向上させるための指導に力を入れていく。
豊かな心の育成	特別の教科道徳を中心として互いに認め合い、思いやる関係を育て、道徳的な心情を喚起し、実践できるようにする。	4	3	・道徳授業地区公開講座では、子供たちは学習内容について真剣に考えていた。このような授業を繰り返していくことで、道徳心がつくと思う。	・道徳授業の一層の充実とともに、全教育活動において、道徳的実践力を高める指導を行っていく。
	相手を思いやる言葉遣いや、気持ちの通い合うあいさつを励行する。	2	2	・昨年よりも子供たちの挨拶が増えたように思う。 ・先生方は適切に指導してくれている。 ・言葉遣いはよいとは言えない。保護者の方が気にしていないような気がする。 ・まずは家庭内、教員同士など、大人が手本を示す必要があると考える。	・豊かな心を育む第一歩は気持ちの良い挨拶であるということを児童に身に付けさせるために、教職員が率先垂範していく。また、児童会活動等を活用して、挨拶の励行を呼びかけさせていく。
健やかな体の育成	外遊び・体育授業・芝生を活用した実践など、体力づくりの取組を継続して行う。	3	3	・様々なスポーツを体験させることは大事だと思う。 ・体育授業や運動会は、以前とあり方が違うということを知ることが必要と考える。	・授業での活動内容を工夫しながら、運動量の確保に努めていく。 ・生涯スポーツの観点から、児童にさまざまなスポーツを体験させていく。
	「早寝・早起き・朝ご飯」、食育等の実践により体と心を整えさせると共に、安全指導を充実させる。学校だけでなく、保健だより等によって、保護者の啓発にも努める。	3	3	・食事のマナーなども、保護者と連携できるとよい。 ・手紙が保護者に渡らないこともあるので、ホームアンドスクールなどを活用して伝えることも必要と考える。 ・保護者への啓発が難しい。	・保健指導の場面や保健だより、保護者会を活用しながら、児童はもとより保護者に対しても朝食摂取の重要性を説いていく。 ・給食時の栄養指導を継続し、児童に食に対する興味関心をもたせていく。
特別支援教育の充実	特別支援委員会(校内委員会を含む)を月に一度以上開催し、配慮の必要な児童の実態に合わせた指導改善を目指す。	4	4	・教員間で、合理的配慮についての意見交換や情報共有がされることも必要だと考える。	・配慮の必要な児童への支援方法の検討や担任への指導方法の助言なども行う組織になるよう、活動内容の改革を行っていく。
	ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりおよび環境づくりを推進し、通常の学級での教室支援を充実させる。	4	3	・特別支援学級ができたことにより、校内のユニバーサルデザイン化が進んだと思う。	・通常学級内に在籍する支援を必要とする児童のためにも、教室内での支援を充実させ、全ての児童が安心して学校生活を送ることができるようにしていく。
本校の特色	地域の学習材を活用して、多様な体験の場を設けた授業を実施する。	2	2	・学校支援本部としてできることは協力したい。 ・大林組のビオトープなど、他の地域学習材も利用できると思う。	・学校支援本部の協力を得ながら、地域の学習材の拡大を図っていく。
	読書旬間(年2回2週間)の設定、「スクールライブラリ」の積極的活用などを通して、「読書が好き」と答える児童を増やす。	1	2	・スクールライブラリについては、平均で13回の活用であった。低学年の生活科など、読書以外の場面での活用も見られた。しかし、アカウント数の不足や使用する学年の限定により、日常的に使用するものとしては使用しにくかった。 ・読み聞かせや図書ボランティアを積極的に活用してほしい。 ・読書に触れることが少ない子供が多い。できるだけ本に親しむ機会を多く作ってほしい。	・令和6年度も、学校図書館やスクールライブラリを活用しながら、読書の質と量の向上を図る。